

AMDA 年次報告書

2016.4.1 ~ 2017.3.31



熊本地震で被災された方に対し診療を行う AMDA 支援チーム

平成 28 年度も多くのみなさまの温かいご支援により様々な事業を実施することができました。
ここに感謝とともにご報告いたします。

緊急支援活動

■熊本地震緊急医療支援活動

- ◇実施場所 熊本県益城町
- ◇実施期間 2016年4月15日から継続中
- ◇派遣者 延べ133名(医師16人、看護師34人、薬剤師5人、介護福祉士26人、理学療法士4人、鍼灸師29人、調整員13人)
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
AMDA 緊急医療チーム、AMDA 災害鍼灸チーム、キャンパス
- ◇受益者数 2909人(受診者数リストより)
- ◇受益者の声

被災者に温かく寄り添っていただき、感謝の気持ちでいっぱい。今後は自らの手で復興に向け頑張りたい。



◇事業内容

4月14日夜、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震(前震)が発生。続いて約28時間後の16日未明、前震とほぼ同じ場所を震源とする本震(マグニチュード7.3)に襲われた。

震度7クラスの大地震が短時間で2度も重なったのは、国内では観測史上初めてのケース。死者は50人、負傷者1684人。建物被害は2万6781棟と東日本大震災、阪神淡路大震災に次ぐ規模となった(消防庁2016年5月24日発表)。

AMDAは連携協力協定を結んでいる岡山県総社市とともに、被災地への支援を決定。前震発生の日翌の15日夜には第1次医療チームが避難所の広安小学校(熊本県益城町)に到着。先に益城町に入っていたAMDA 難波調整員(益城町出身)とともに、教室に避難していた住民らの回診を行った。

16日には広安小学校保健室を救護所として開設し、朝から診療に当たった。断続的に続く余震に住民らは不

安を募らせ「建物内は怖い」と車中泊をする人たちで広安小グラウンドはあふれた。

介護度の高い高齢者の部屋には災害時用段ボールベッド、避難所トイレには簡易洋式トイレ「ラップボン」を整備した。また、長引く避難所生活で慢性疲労を訴える人が増え、針治療は「心身ともに落ち着ける」と好評を得た。

AMDAと連携協定を結ぶ岡山経済同友会は5月3~5日、岡山県内の大学生をボランティアとして派遣。学生25人が広安小学校の各教室やグラウンドを清掃した。

益城町の避難所は10月末、すべて閉所した。AMDAは支援チームを計31回、医師ら延べ133人を派遣し、延べ2909人の被災者の治療に当たった。

■エクアドル地震緊急支援活動

- ◇実施場所 エクアドル・ペデルナレス
- ◇実施期間 2016年4月23日から5月2日まで
- ◇派遣者 ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ/調整員/AMDA インターナショナル事務局長
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
総勢17人(AMDA 調整員1人、サンフランシスコ・デ・キト大学(USFQ)から医師4人、カウンセラー2人、医学生8人、調理師2人)
- ◇受益者数 最初の三日間で150人
- ◇受益者の声

現地チームによれば、AMDAが提供した医療サービスは現地の方々に大変感謝されたとのこと。

◇事業内容

4月17日にエクアドル共和国エクアドル市を震源とする地震(マグニチュード7.8)が発生。最大でマグニチュード5.1の強い余震も報告され、多くの被災者ががれきの下敷きとなる甚大な被害が予測される状況となった。

エクアドル政府危機管理室によると、この地震による死者は570人、負傷者7000人以上、行方不明者155人、被災者は2万5000人以上にのぼった(2016年4月21



日発表)。

AMDA は医療支援活動を決定。調整員1人を派遣し現地大学 (USFQ) と共同で支援活動を行った。

西海岸の港町ペデルナレスを訪れた同調整員が見たのは、がれきの山と化した町で、被害は全家屋の8割から9割に及んでいた。狭いスペースに大勢の避難者がおり、いかに感染症を予防するか、保健教育の必要性に迫られていた。支援物資も届いておらず、医療支援も不十分な状態だった。

そこで、活動拠点をペデルナレスに置き、AMDA と USFQ の合同チームは医師や看護師ら17人で構成する医療チームを結成、活動を本格化させた。

エクアドル政府は5月2日に被災各地の学校を再開させる予定だったが、非常事態下にあるため7月まで延期。このため、合同チームはペデルナレスにある学校で、サマーキャンプ形式の教育プログラムを実施し、子どもたちの日々の勉強の継続を可能にするなどの活動に取り組んだ。

■スリランカ洪水・地滑り災害緊急支援活動

◇実施場所 スリランカ・コロンボ、コロンナワ村

◇実施期間 ・第一段階：

2016年6月2日から6月8日

・第二段階：6月20日(無料診療)

◇派遣者 菅波茂代表/医師/AMDA グループ代表、ニティアン・ヴィーラヴァーグ/調整員/AMDA インターナショナル事務局長

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

・第一段階：8人 (AMDA 本部から調整員1人、AMDA スリランカから4人、現地提携団体 St. John Ambulance から3人 (医師、医療従事者等))

・第二段階：10余人 (菅波茂 AMDA 代表、AMDA スリランカ支部長とスタッフ数人、地元の公衆衛生監視員3人、医師4人、コロンナワ村の保健局から薬剤師兼看護師2人)

◇受益者数 第一段階：約140人

第二段階：320人(無料診療の受診者)

◇受益者の声

支援した学校の校長および先生方から感謝状を授与された。

◇事業内容

5月半ばに低気圧がスリランカ全土を襲い、特にコロンボなど西部・中部の各地で洪水や地滑りが起きた。5月末までの死者数は100人を超え、行方不明者も依然として多く、当局は被災者が全国で約25万人にのぼるとした。

6月2日に AMDA 本部は調整員をコロンボに派遣。ス



リランカ支部やライオンズクラブ・ネガンボ支部などとともに被災地域の学校に寄付などを行った。コロンボから約20キロ離れたマルワナでは、小学校の全校児童136人に AMDA が通学カバンを寄付した。

支援の第2段階として、AMDA はスリランカ支部、同国保健省と協力して、6月20日にコロンボ郊外のコロンナワ村で無料診療を行った。現地の仏教寺院によると、被災地の生活状況は劣悪で、外部からの支援はほとんど入って来なかったという。

無料診療には AMDA グループの菅波茂代表をはじめ、スリランカ支部長とスタッフ、地元の公衆衛生監視員3人、医師4人、コロンナワ村の保健局から薬剤師兼看護師2人からなるチームを結成。会場となった地元の仏教寺院からボランティア数人も参加した。診察に訪れたのは320人だった。

さらに AMDA は地元の公衆衛生監視員の助言もあり、菅波代表がデング熱防止へ蚊帳70組をコロンナワ村の人たちに贈呈。別途、100組をウェランビディヤで被災した人たちに贈った。救急箱20個も地元の学校や医療機関などに配布し、公衆衛生監視員が応急措置のトレーニングをした。

■台風が相次ぎ東北地方に被害

◇実施場所 岩手県大槌町

◇実施期間 2016年8月30日から9月14日

◇派遣者 佐々木賀奈子/AMDA 大槌健康サポートセンター長

◇受益者数 25人

◇事業内容

8月下旬から9月上旬にかけて、東日本大震災の被災地・東北地方に台風が相次いで接近し、大きな被害をもたらした。こうした中で AMD 大槌健康サポートセンター(岩手県大槌町)は被災者の救援活動に努めた。

8月30日夜には避難所に行くことができない近所の

お年寄りら5人が同センターに身を寄せた。佐々木賀奈子センター長は、準備していた食料と水を提供。瓢箪ランプに火をともし、みんなで一夜を明かした。大槌町の80歳のお年寄りが手作り団子などを販売している店舗「おやちゃい」にも泥が流れ込み、利用者らを悲しませた。



9月8日にも同センターに3人が避難し宿泊した。AMDA本部は支援物資として防寒マスク、使い捨て手袋、レインコートなどを被災者に届けた。

◇受益者の声

津波だけでも沢山なのに、台風慣れていないから、川の氾濫、山からの土砂崩れが怖い。町内放送で自主避難、避難するとき飲料水、食品は持参と言われたけど、仮設からはバスは停まるがタクシーはなかなか来ないので、重いものを持って逃げることは困難だから、助かった。

■ハイチ・ハリケーン緊急医療支援活動

- ◇実施場所 ハイチ・モロン市、レメア市、マフラン市
- ◇実施期間 2016年10月8日から10月27日
- ◇派遣者 松永健太郎 / 調整員 / AMDA本部職員、佐藤拓史 / 医師、押谷晴美 / 看護師、森田佳奈子 / 調整員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
TMAT：医師1人、看護師1人
AMDA：医師1人、看護師1人、調整員2人
AMDAハイチ：医師3人、看護師2人、ドライバー1人
現地スタッフ：清掃員6人、調理員1人
- ◇受益者数 232人
- ◇事業内容

現地時間10月4日、大型ハリケーン「マシュー」が



ハイチに上陸し、最大風速65m/秒を記録した。死者546人、行方不明158人、避難者は175,509人（WHO10月28日発表）。ハイチは2010年1月に死者22万人を超す大地震に見舞われており、復興途上の中でさらなるダメージを負った。

AMDAはハイチ支部とともに緊急医療支援活動を決定。NPO法人TMATとの合同チームで10月8日に第1次、14日に第2次チームを派遣した。

AMDAチームが担当することになったモロン病院（モロン市）ではコレラ患者が増え続けており、感染対策も十分ではなかったため、診療に加えコレラ感染予防教育を行った。また、自発的に病院を清掃していた地元の方ら6人を雇用し、衛生面の改善を目指した。

被災地では日常的に食糧不足の状態、栄養不足による抵抗力が弱まっており、1日70～80人分の野菜スープを作り患者や家族に配布し喜ばれた。

AMDAチームは27日までに全員が帰国し、その後もハイチ支部メンバーが中心となり、モロン病院からレメア市の病院に移送された患者への食糧援助をはじめ、マフラン市で新たに立ち上がったCTC（コレラ治療センター）で衛生面の支援を続けた。

◇受益者の声

日本から来てくれてありがとう。温かいスープが食べられて嬉しい。

■鳥取地震緊急支援活動

- ◇実施場所 鳥取県倉吉市
- ◇実施期間 2016年10月24日から26日
- ◇派遣者 山河城春 / 看護師、保健師 / AMDA ER ネットワーク登録メンバー、橋本千明 / 看護師 / AMDA本部職員、大西彰 / 調整員 / AMDA本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成 なし
- ◇受益者数 なし（チラシ配布のため、具体的には不明）
- ◇受益者の声 なし
- ◇事業内容

10月21日午後2時7分、鳥取県中部を震源とする震度6弱（マグニチュード6.6）の地震が発生。余震が続く中、避難している住民のストレスによる体調不良が心配される状況だった。

AMDAは適切な支援策を見極めるため、10月24日に地震の被害の大きかった倉吉市を中心に看護師2人、調整員1人を派遣した。同市の避難所で情報収集を行う中、市から要望のあった体調不良を訴える高齢者2人と子どもへの健康相談に応じた。

被害状況を確認した後、市職員に同行して戸別訪問を実施。市社会福祉協議会が立ち上げたボランティアセンターの利用を勧めるチラシを配布するとともに、自宅駐

車場で車中泊の可能性のある人たちから聞き取りをするなど3日間、精力的に活動した。

■福島県沖地震緊急支援活動

- ◇実施場所 福島県南相馬市
- ◇実施期間 2016年11月22日から24日
- ◇派遣者 山河城春 / 看護師、保健師 / AMDA ER ネットワーク登録メンバー、難波比加理 / 調整員 / AMDA 本部職員、松永健太郎 / 調整員 / AMDA 本部職員
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム
Bridge for Fukushima

◇受益者数 0

◇事業内容

11月22日午前5時59分、福島県沖を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生。福島県で震度5弱を観測したのを受け、AMDAは緊急支援活動チームの派遣を決め、同日に現地入りした。



元AMDA職員の伴場さんが立ち上げた一般社団法人BFFの事務所を訪問。BFFが問い合わせた沿岸部の団体によると、人的被害はないとの情報だった。南相馬市立総合病院の神戸医師と会ったが、大きな被害や混乱はないとのことだった。

また、AMDAが実行委員会とともに開催している復興グルメF1大会で世話になっている南相馬かしま福幸商店街の高橋さんに伺ったところ、南相馬市では避難所が6カ所開設され、420人が避難、昼から市が炊き出しを行った。避難勧告は解除され、夜には全員が帰宅したという。

情報収集の結果、第2次派遣の必要性はないと判断した。福島を離れる前、復興グルメF1大会関係者とお会いしたが、沿岸部の住民は災害への意識が高く、地震発生後すぐに非難し被害はなかったとのことだった。

■インドネシア・スマトラ島地震緊急支援活動

- ◇実施場所 インドネシア・アチェ州
- ◇実施期間 2016年12月9日から15日
- ◇派遣者 AMDAインドネシア支部 麻酔科医2人
- ◇現地事業チーム構成 AMDAインドネシア支部 麻酔科医2人、ハサヌディン大学からの整形外科医3人、地元自治体



◇受益者数 189人

◇受益者の声

災害が発生した後、誰も来なかったのがAMDAが来てくれてありがたい。子どもたちへのおもちゃ配布していただき、とても喜んでいる。

◇事業内容

インドネシア・スマトラ島北端のアチェ州で現地時間2016年12月7日午前5時3分、マグニチュード6.5の地震が発生。死者102人、重傷者125人を含む500人以上の負傷者が出た（インドネシア国家防災庁発表）。

12月9日から12月15日まで、AMDAインドネシア支部の麻酔科医2人は、地元のハサヌディン大学から派遣された整形外科医3人とともに活動した。医療チームは地域の被害状況を確認後、シグリの病院に滞在し巡回診療を行い、地元自治体と協力して支援物資を配布した。

2004年12月26日にはスマトラ島沖地震津波で、12カ国以上の国で23万人が亡くなり、アチェ州では17万人が犠牲となるなど地震が頻発している。

■新潟県糸魚川大火 総社市・AMDA 合同緊急支援活動

- ◇実施場所 新潟県糸魚川市
- ◇実施期間 2016年12月24日から26日
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
総社市より4人、AMDAより1人（橋本千明 / 看護師）
- ◇受益者数 なし（ケーキを避難所にお渡ししたため）
- ◇受益者の声 なし（同上）
- ◇事業内容

年末が押し迫った12月22日、新潟県糸魚川市で大規模火災が発生。363世帯（744人）に避難勧告が出され、約150棟、4万平方mが焼損する事態となった。総社市とAMDA合同支援チームは24日午前10時に総社市役所を出発、同日午後5時に現地に到着した。すぐに避難所となっているホテルなどと糸魚川駅北大火対策本部を訪問。織田副市長らに総社市が持参したクリスマス



スケーキなどを手渡した。

被災地では、「フェーン現象で飛び火したため、いろいろな所から火の手が上がり、燃え広がった。人も水も足りず、本当にアツという間だった」と説明を受けた。

被災した地域では、地元の方々がお茶やコーヒー、トイレ、仮眠スペースなどを提供し、助け合いの輪が広がっているのが印象的だった。

現地入りした AMDA の橋本千明看護師は「焼け焦げた後の特有のつーんとする臭いが周囲に漂い、映像とは違って自分の目で見た惨状は想像以上。大きな衝撃を受けた」と振り返った。

■インドネシア洪水緊急支援活動

- ◇実施場所 インドネシア ヌサ・トゥンガラ州
- ◇実施期間 2016年12月28日から2017年1月2日
- ◇派遣者 AMDA インドネシア支部 医師と調整員4人
- ◇事業チーム構成 AMDA インドネシア支部 医師と調整員4人、地元の団体
- ◇受益者数 280人
- ◇受益者の声 当局関係者から、ありがとうと感謝の言葉をかけられた。
- ◇事業内容

インド洋を通過したサイクロンの影響で2016年12月21日から23日にかけて、インドネシアの西ヌサ・トゥンガラ州は大雨に見舞われた。同州の災害対策機関によると、人口10万人以上が住む州内の33地域が洪水により進水。AMDA インドネシア支部は支援活動を決め、AMDA 本部の協力の下、医師や調整員4人の派遣を決定した。

インドネシア支部の医療チームは医薬品や医療資材などを準備し、12月28日に被災地入り。地元の団体などと協力し、12月29、30日に巡回診療をした。

2日間で280人（1日目151人、2日目129人）の患者を診察し、医療サービスに加えて、被災地の子どもに風船などのおもちゃ、大人には本を配布した。

洪水の被害を大きさを目のあたりにした医療チームは、新年を被災者と一緒に迎え交流を深めた。

■茨城地震緊急支援活動

- ◇実施場所 茨城県高萩市
- ◇実施期間 2016年12月29日から12月30日
- ◇派遣者 山河城春 / 看護師、保健師 / AMDA ER ネットワーク登録メンバー、大西彰 / 調整員 / AMDA 本部職員
- ◇受益者数 なし
- ◇事業内容

12月28日午後9時38分に茨城県北部を震源とするマグニチュード6.3の地震が発生し、高萩市で震度6弱を観測した。AMDAは29日、被災地での支援ニーズ調査のため看護師1人、調整員1人を派遣し、同日中に現地入りした。

開設された複数の避難所は29日午前中に住民が自宅に戻っており、余震は続くものの建物被害はほとんどなく平穏だった。医療などの支援ニーズも特になかった。

高萩市の住宅被害は5棟で、市がブルーシートを配布した。ホテルは壁にひびが入っていたが、平常通り営業されていた。



■フィリピン台風26号緊急支援活動

- ◇実施場所 フィリピン・カタンドゥアネス島
- ◇実施期間 2017年1月11日から16日
- ◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
カタンドゥアネス州立大学エクステンションスクール、地元警察、訪問したバランガイ（地区）オフィサー
- ◇受益者数 500世帯
- ◇受益者の声 台風が上陸した時には、怖くて不安で泣いていた。もう二度と台風は来てほしくない。食糧も十分ではなく、今後の事はわからない。食糧支援は、州、市、地域からそれぞれ1回ずつ配給があった。今回の支援で4回目。このような食糧支援で自分たちの生活は成り立っている。ありがたい。



◇事業内容

2016年12月25日、台風26号がルソン島の南東にあるフィリピン・カタンドゥアネス島に上陸した後、ルソン島アルバイ州を通過し、大きな爪痕を残した。

AMDAは現地協力者のフィリピン大統領府長官首席秘書官の紹介で、カタンドゥアネス州立大学と連絡を取り、被災地域で食糧が不足しているとの報告を受けて支援物資の配布を決定。

2017年1月11日にマニラ入りしたAMDA看護師は翌12日、同大学の学長、学部長と現地での活動について打ち合わせをした後、13日に被災が大きかった地域の世帯を対象に、米やコーヒーなどを入れた袋を1セットとして500世帯に配布した。

自宅が全壊した男性は「これまでアバカという植物の葉を山から採取し、販売して生計を立てていたが、台風の影響で採れなくなった。食糧支援は本当にありがたい」と述べた。

復興支援活動

■ネパール地震復興支援活動

◇実施場所 ゴルカ郡、シンデウパルチョコク郡、カトマンズ市内、岡山済生会総合病院

◇実施期間 2015年5月26日から現在

◇派遣者 アルチャナ・シュレスタ・ジョシ/ネパール担当部長ほか

◇受益者数 1700人以上

◇現地協力団体 AMDA ネパール、ネパール医師会、Center of Independent Living Kathmandu (CIL-Kathmandu)

◇受益者の声

医療サービス、心理的なカウンセリングやピアカウンセリングを受けていた多くの被災者たちは、AMDAの支援があったからこそ、大地震で負った外傷の治療ができ、

精神的な不安を乗り越えることができたことに対して敬意を表していました。

◇事業内容

2015年4月25日、マグニチュード7.8の大地震がネパール中部を震源に発生。5月12日にはマグニチュード



7.3の余震が起き、被害が拡大した。AMDAは緊急救援活動に続き、5月26日から復興支援を続けている。

[学校のトイレ建設] 震源地のゴルカ郡では90%以上の建物が全壊し、多くの学校も被害を受けた。水不足と劣悪な衛生状態が授業運営の大きな妨げとなっており、AMDAは学校のトイレ建設プロジェクトを計画。ゴルカ郡の2つの学校にトイレを設置した。

[心理カウンセリングボランティア養成] 被災に伴う心的外傷が被災者に及ぼす影響を考慮し、心理カウンセリングのボランティア養成講座を10回開き、418人のヘルスボランティアが心理社会的サポートと基礎的なカウンセリング技術の研修を受け、修了証を得た。

[障がい者支援プロジェクト] 障がい者の自立に向け、リハビリテーションの視点からの支援の必要性に迫られていた。AMDAは現地製造の車いすと福祉用具の支援をもとに訪問リハビリテーションを行い、閉じこもり予防などのサポートを続けている。

[海外研修プログラム] 岡山県が実施しているローカルトゥローカル海外研修員として、AMDAダマック病院のディワス ラジュ ボホラ医師が来日。岡山済生会総合病院で3カ月間の内視鏡の研修を受けた。帰国後は同病院で胃腸病に苦しむ患者に上部消化管内視鏡検査によって病状を診断し、必要に応じて胃生検や潰瘍クリッピング検査ができるよう体制の整備を検討している。

[健康診断プログラム] AMDAネパールはAMDAの支援のもと、3月13日にヤムナダダ村で無料健康診断を実施した。内科医1名、歯科医1名、歯科衛生士兼調整員1名と助手1名をこの村に派遣し、内科医と歯科医が合計105人を診察した。診察後は必要な薬を無料で配布した。貧困や、病院へのアクセスが悪いことを理由に病気を抱えている多くの人が健診を受けた。

■東日本大震災復興支援活動

◇実施場所 岩手県上閉伊郡大槌町、宮城県本吉郡南三陸町、宮城県気仙沼市、宮城県石巻市、福島県南相馬市

◇実施期間 2011年3月12日から現在

◇派遣者 (2016.4.1～2017.3.31) AMDA 本部職員含む延べ102人ほか、現地雇用4人(計106人)

◇受益者数 7,874人

◇現地協力団体 復興グルメF-1大会運営事務局、NPO法人仙台夜回りグループ

◇事業内容

2011年3月11日にマグニチュード9.0の大地震が発生し、津波による甚大な被害をもたらした「東日本大震災」から6年が経過した。AMDAは緊急医療支援活動として同年4月末までに延べ149人を派遣。その後も途切れることなく復興支援事業を継続して実施し、被災者の方と手を取り合って復興へ向けた着実な歩みを進めている。

【医療・健康支援】 2011年12月に岩手県大槌町で開所したAMDA大槌健康サポートセンター(センター長・佐々木賀奈子鍼灸師)。地域スタッフを中心となり、「さをり織り教室」などを開催し、地域住民の心身の健康に着目した教室やイベントを行っている。適度な運動になる上に、地域住民の憩いの場として好評を得ている。2016年12月で開所して丸5年を迎え、さらに地域に密着した活動を目指している。また、2016年5月にAMDA大槌健康サポートセンターのスタッフ2名が独立し、2017年3月に一般社団法人Tsubomiを設立。AMDAの委託事業として子育てに関する教室などを企画・運営している。

【生活・自立支援】 東日本大震災の被災地の商店街などが丹精を込めた料理を出品し、来場者が投票して人気ナンバー1を決める「復興グルメF-1大会」(同実行委員会主催、AMDA協賛)。被災商店街がひとつになり、復興に向けて知恵を共有する大会となっている。2016年度は12回目が2016年4月16日に福島県南相馬市、13回目が2016年10月9日に宮城県石巻市、14回目が2017年3月26日、宮城県南三陸町で開かれ、大勢の家族連れでにぎわった。AMDAは現地に向けてボランティアバスを運行。テーブルやいすの設置作業をしたり、各ブースに入ってグルメを求める列がスムーズに並べるよう声掛けをした。

また、2016年2月には被災地間交流フォーラムを開催し、今後起こり得る「南海トラフ地震」に備えて東日本大震災の被災地の仮設商店街の方、また南海トラフ地震で被災が予想される地域の自治体の方が一堂に会し、経験や知恵を共有し、将来に備えた具体的なディスカッ



ションを行った。

さらに、震災後路上での生活を余儀なくされている方々に対し、AMDAは2013年度から現地にお米を贈る活動を開始。AMDAの呼び掛けに賛同をいただいた個人農家や農業高校からお米を提供いただき、現地で炊き出しなどを行っているNPO法人仙台夜回りグループに送っている。

【教育支援】 これまでに引き続き、AMDA東日本国際奨学金の支給を継続。岩手県立大槌高等学校、宮城県立志津川高等学校に在学する、将来医療従事者を目指す各学校長の推薦を受けて選定された学生を対象に支給した。2016年度は15人へ奨学金の支給を行った。これまでの受益者数はのべ313人となった。

その他にも学生の被災地でのボランティア活動の受け入れ、調整なども行った。

◇受益者の声

被災商店街同士、会って話をする事はなかなかないので、F-1大会を通じて参集できてとても良い刺激と情報交換の機会になっている。奨学金を受けることができ、夢への一步を踏み出せると思います。将来は、地元で看護師として働けるようになります。

平和構築活動

「医療和平」は、相対する双方に公平な医療を提供することで和平構築に寄与するAMDAの試み。パキスタン、旧ユーゴスラビア・コソボに続きスリランカは3例目となる。

少数民族に多数の民族を管理させるイギリス統治形態の歴史の終焉後、スリランカでもその歴史のひずみの影響を受け、人口の約8割を占めるシンハラ人政府は少数民族タミル人を2等市民扱いする政策が打ち出された。そこで、北部を中心にタミル人の独立運動が起こり、スリランカ国内では80年代初めから20年以上の内戦状態が続いていた。

独立を目指すタミルイーラム解放のトラ(LTTE)と政

府の間で2002年に停戦合意がなされ、海外から支援に入ることが可能となった。スリランカの和平推進に向けて明石康日本政府代表からすべての民族に対し公平に日本の顔が見える医療支援が出来ないかという問いかけに菅波茂代表が即応した。

AMDAは2003年2月から北部と南部、北東部で同時に巡回診療と巡回衛生教育を展開。この活動には公用語(タミル語、シンハラ語)、英語の3言語表記によるお互いの文化を知る和平メッセージを込めた冊子の配布を行った。

活動は2005年まで継続したが、内戦の再燃により継続不可能になった。政府軍が北部・北東部のタミル人地域を鎮圧する形で終戦となり、その後民族の融和は国の最大課題の一つとなる。AMDAでは内戦で育った10代の子どもらと日本の子どもらがスポーツなどの交流をする「医療和平」パートIIを2001年から実施している。

■スリランカ「医療和平」パートII 平和構築青少年交流事業

◇実施場所 スリランカ国、トリンコマリー Muthur Central College

◇実施期間 2016年7月27日～8月3日
(活動日は7月29日～7月31日)

◇派遣者 竹谷和子/AMDA ボランティアセンター参与、岩本智子/AMDA 本部職員

◇現地事業チーム構成

スリランカ国トリンコマリー Muthur Central College の中学生、キリノッチ Viveganantha Vidijalajam 学校 の中学生、マータレ Kaudupeleliella Sinhaia Vidyalaya, St.Thomas Boy's School, Kuranboda Central College, Sangamitt Girl's School の中学生、それぞれの引率の先



スポーツ交流(バレーボール)の試合の様子



宗教プログラム(キリスト教会)へ参加者全員で訪問



バレーボールの試合後、全員でダンス楽しみ交流を深める



文化交流の場で生け花と篠笛の演奏をする
AMDA 中学高校生会

生たち、日本から AMDA 中学高校生会メンバー 2 人

◇事業内容

今年6回目を迎えた本事業は、スリランカ北東部に位置するキリノッチで開催した。AMDA 中学高校生会から男女一人ずつ中学生と高校生の計2人が参加した。

スリランカ国内からは民族、宗教が異なる中学生が集まりスタッフも合わせ77人が参加した。開会式後3日間を通し、仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教を訪れる宗教プログラム、スポーツ交流(バレーボール大会)、文化交流等が行われた。中でもキャンプファイヤーやワークショップの実施は興味深く、スポーツ交流で構成されたチーム(異なる学校、民族、宗教の混合チーム)での共同作業はとても有意義だった。

AMDA 中学高校生会の2人はどのプログラムにも積極的に参加し、30日の夜、実施校ムトゥールセントラルカレッジでスリランカ現地の学生たちと宿泊を共にし、夜遅くまで話し合ったり交流を深めた。この交流事業を通して国、民族、宗教、文化の違う青少年たちがお互いのことを知り、理解を深め合うことで、このプログラムの目的が充分達成されたと感じる。

参加した AMDA 中学高校生会の2人も、それぞれの違いを認め合うことが平和構築につながる第一歩であると話していたことからこのプログラムで多くの気づきや大切なことを学ぶことができたと感じる。

今後もこの事業を継続し、スリランカ国以外においても世界の平和の実現に向け青少年たちの貢献に期待したい。

◇受益者数 77人

◇受益者の声

・あと一年で卒業前に受ける GCEOL を通過したら看護学校に入り看護師になるのが目標。このプログラムに参加しよかった。楽しい。

・スリランカ北部と中部の人達が交流することはほとんどない。このプログラムは平和なコミュニティを作るのに貴重なプログラムだと思う。引率として参加し地域の習慣、食べ物などを通じて新しい体験をし、多くのことを学ぶことができた。

・地域の外に出て他の地域や国の生徒と交流する機会は滅多にない。内戦で親を亡くした生徒も参加しているが、彼らにとっても貴重な体験になっていると思う。

・(参加した AMDA 中学高校生会2人から) このプログラムはとても多くの大切なことを学ぶことができた。この経験を活かし様々な活動に取り組んでいきたい。スリランカ現地の様子を日本のいろんな人に伝えていくことが大切だと思う。

等の声があがった。

◇現地協力機関

AMDA スリランカ、St.John's Ambulance スリランカ

■ GPSP (世界平和パートナーシップ構想) 魂と医療プログラム

◇実施場所 モンゴル

◇実施期間 2016年9月4日

◇派遣者 菅波茂/AMDAグループ代表、ドンラオ/AMDAシンガポール支部長、高崎裕子/川崎医療福祉大学教授、守田好江/日本視能訓練士協会顧問、難波妙/AMDA GPSP支援局長、松永健太郎/AMDA本部職員

◇受益者数 30名

◇受益者の声

毎年モンゴルのために日本から来てくださり平和への祈りを続けてくださることに心から感謝します。

◇現地協力団体

AMDA モンゴル、AMSA モンゴル、アイリスツアー

◇事業内容

モンゴル仏教総本山ガンダン寺で2016年9月4日、第9回平和祈願祭が大本モンゴル本部とともに行われた。

ハルハ河戦争から77周年となる本年も、宗教法人大本様の参加をいただき、ガンダン寺の住職らとともに、第二次世界大戦で尊い命を捧げたモンゴル、日本両国の犠牲者の冥福を祈り、世界平和への努力を誓った。

祈願祭は、ガンダン寺モンゴル仏教学校校長バムバジャム師のあいさつの後、大本国際愛善宣教課の鬼塚義彰氏、バンザラグチ ダルハジャヴ氏が祝詞を奏上。AMDAグループの菅波茂代表が「モンゴルと日本の人々の平和への思いを深く心で読み取る努力を続け、相互扶助の精神で世界平和の実現に動き出すことが求められている」と訴えた。

式典の後、AMDA ガンダンロータスプロジェクトで昨年、モンゴル国内の6カ所の僧院から60人の少年僧に法衣が贈られたことが報告された。さらに、少年僧への食糧支援が提案され、実施が決まった。

式典は菅波代表のほか、AMDAシンガポール支部のドンラオ支部長、川崎医療福祉大の高崎裕子教授と学生4名、日本視能訓練士協会の守田好江顧問、AMDA本部、AMDAモンゴル支部長、AMSA Mongoliaの学生らも出席した。



中長期継続事業

■ AMDA フードプログラム

◇実施場所 岡山県真庭郡新庄村、インドネシア スラウェシ島マリノ村

◇実施期間 2012年4月1日から現在

◇従事者 アロイシウス・シタミ/野土路農場長、田中俊輔/AMDA本部職員ほか

◇事業内容

「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を普及することが目的とした事業。岡山県真庭郡新庄村野土路地区に農場を開設し、アヒルを使った無農薬有機稲作栽培を中心とした農業を実施している。

<野土路農場>

岡山県真庭郡新庄村にある「AMDA 連携野土路農場」は、アジアへの有機農業の普及・啓発を目的に2012年から始まった取り組み。アヒル農法による無農薬でコシヒカリなどの米と野菜を栽培している。

9月22日に恒例の収穫祭が開かれ、地元や岡山市などから約50人が参加。コシヒカリ(78アール)と新庄村特産のヒメノモチ(12アール)が黄金色に染まった農場で、地元の子どもら20人が田植え歌と踊りなどを披露した。

AMDAはプロジェクト関係国の在日公館を表敬訪問し、野土路農場で収穫した有機米を贈呈した。

<マリノ村有機農業実践圃場>

現地農家の生活向上や生産量増加のため、インドネシアのスラウェシ島マリノ村バトゥラピシ地区で実施している。



同地区は高地にあり、大半が面積の小さい棚田であるため大きなトラクターが入らず、人力や牛を使って耕作している。生産性が低く、貧しくて学校に通えない子どもや病気になっても病院に行けない人たちがいる。

そこで、AMDAは2013年にマリノ村から有機農業の研修生2人を野土路農場(岡山県新庄村)に招へい。研修を終えた2人を中心に2013年、AMDA有機農業実践圃場をマリノに開所した。その後、AMDA本部職員がマリノに出向き、フォローアップ研修を継続している。2015年には有機栽培米を通常の3倍の値段で販売することができ、農家に大変喜ばれた。

今回は2016年2月2日から4日間、職員がマリノを訪問し、プロジェクトのモニタリングを行った。その結果、新たに6人が有機栽培を希望していることが分かり、肥料などのアドバイスや水田の測量を実施した。この活動の広がりやインドネシアの環境を守ることにつながり、AMDAは支援活動を続けていく。

■インドネシア口唇口蓋裂無料手術事業

◇実施場所 インドネシア・パレパレ、バル地区

◇実施期間 2016年5月9日から11日

◇派遣者 ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ / 調整員 / AMDA インターナショナル事務局長

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

総勢およそ30人（台湾IHAの医療チーム（9人）、AMDAインドネシア（1人）、現地Celebes Cleft Centre (CCC)の医療チーム（9人）、現地の看護師（約10人）

◇受益者数 23名

◇受益者の声 手術を受けることができて人生が変わった。本当に感謝したい。

◇現地協力団体 Celebes Cleft Centre (CCC)、台湾IHA（注：現地ではないが）

◇事業内容

AMDAと台湾IHAは合同で5月9日から3日間、インドネシア・スラウェシ島東部パレパレとバル地区で、口唇口蓋裂の患者を対象に、無



料で形成・再建手術を行った。このプロジェクトは昨年に引き続き、AMDAインドネシア支部が持つ広域的なネットワークにより実現した。

AMDA本部から調整員1人、台湾IHAから9人のスタッフが合同チームとして参加。台湾チームは形成外科医3人、麻酔医2人、手術室看護師3人、調整員2人で構成し、現地の口腔顔面筋を専門分野とする外科医4人とともに手術を実施。無事に今回のミッションを終えた。

パレパレでの手術は、いずれも口蓋形成、喉頭弁、鼻の整形と複雑なものが多く、患者の術後の人生を大きく左右するものばかりだった。バルの政府系病院で活動をした合同チームは地元の市長から来賓として歓迎を受け、市の宿舎に泊まった。

手術を受けたのは23人だったが、いずれも市長、病院長とともに今回のミッションに深い謝意を示した。

また、2015年に手術を受けた女性がチームを訪れ、近況報告をした。術後に自信を取り戻した彼女は職を得

ることができ、人生の伴侶にも出会うことが出来たそうで、充実した人生を送っている様子だった。

■インド ブッダガヤ AMDA ピース・クリニック

◇実施期間 2009年11月から現在

◇実施場所 インド国ビハール州ブッダガヤ

◇派遣者 菅波茂 / 医師 / AMDA グループ代表、難波妙 / 調整員 / AMDA GPSP 支援局長、ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ / 調整員 / AMDA インターナショナル事務局長、橋本千明 / 看護師 / AMDA 本部職員、岩本智子 / 看護師 / AMDA 本部職員ほか、現地雇用スタッフにより運営

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

看護師1人、補助員1人、運営者1人、訪問の産婦人科医と歯科医（各1人）、

◇受益者数 500人以上（2016年度）

◇受益者の声 妊婦への訪問や出産に関する的確な助言など、きめ細かなケアに女性達は喜んでいる様子だった。

◇現地協力団体（主にAMDAピース・クリニックとSAIJO INARISAN BODAISSHINJI BODHGAYAが運営）

◇事業内容

2009年に開院したAMDAピース・クリニックは、インドで最貧といわれるビハール州ブッダガヤにある。この地は仏教の聖地として知られ、世界遺産の大



仏塔を中心に各国の仏教寺院が立ち並んでいる。同クリニックは仏教施設しか建設が許可されない地域にあることから、岡山市太生山一心寺様のご協力のもと、お寺付属の病院として慈善事業をする信託財団を設立して運営している。

開院当初はアーユルヴェーダを中心に診療していた。しかし、インドで最も貧しい同州では自宅出産が多いことから2014年10月、母子保健に特化した活動に転換した。

現在は現地の看護師、ローカルアシスト、事務局スタッフ計3人を中心に、地域の妊産婦の自宅を毎日訪問し、栄養と保健の指導を無料で行っている。さらに第2、4日曜日には、地元の経験豊富な産婦人科医による妊婦健診を1回20ルピー（約40円）で実施している。これまで72人の母親が同クリニックに登録し、現在も約50人が利用している。

2016年1月からは、月1回の歯科検診に取り組んでいる。

■カンボジア健康啓発事業

◇実施場所 トボンクムン州メモット

◇実施期間 2016年4月から2017年3月 通年継続

◇現地事業チーム構成 AMDA カンボジア支部、

◇受益者数 260人(キャンペーン参加人数)10人(サッカークラブ員)

◇受益者の声 各セクターが包括的に協力し合うことは、HIV/エイズの予防、管理、啓発、コミュニケーションを促す上で大変効果的であるといえる。このキャンペーンはHIV/エイズと共に生きる人々をケアする上で、彼らにより広く深く関わることに繋がるであろう。

◇現地協力団体 トボンクムン州保健局、地方保健局、地方自治体、エイズ患者やボランティア教育者。

◇事業内容

AMDA カンボジア支部では、「HIV/エイズプロジェクト、健康推進キャンペーン」「AMDA カンボジア・サッカークラブ」の2つのプロジェクトを実施した。



◆ HIV/エイズプロジェクト、健康推進キャンペーン

性感染症とHIV/エイズの基礎知識普及のためのパンフレット1000部とTシャツ200枚、を作成し配布した。トボンクムン州保健局と協力して、ボランティア教育者育成センターで、ワークショップを行った。HIV/エイズ患者やボランティア教育者のネットワークを通じて、HIV/エイズ予防への意識を深め、啓蒙を図ることを目的としている。「2020年までにHIV/エイズ疾患をカンボジア全土から根絶する」というカンボジア政府の目標に貢献した。

◆ AMDA カンボジア・サッカークラブ

AMDA カンボジア・サッカークラブでは、隔週でメンバーが練習を行い、毎月他のクラブと試合を行っている。カンボジア国内におけるスポーツの向上を図り、若者に対してスポーツへの更なる参加を呼び掛けることで、彼らが薬物依存や犯罪、暴力に走らぬよう阻止することを目的としている。

■パキスタン家庭教育プログラム

◇実施場所 パキスタン タッタ県サクプール地区・ミルプール・サクロ

◇実施期間 2014年7月から継続中

◇受益者数 (2016年4月～2017年3月) 143人

*新しい活動地への移行のため予定人数より少ない。

◇現地協力団体の声

中間報告の結果、本プログラム対象者である未婚女性の知識や生活習慣の面で大きな変化をもたらし、またその家族、コミュニティにも波及したことが明らかになりました。

◇現地協力機関

National Rural Support Programme (NRSP)

【プログラム立ち上げの経緯】

2013年9月にAMDAがパキスタンにおけるポリオ撲滅活動の事前調査を行い、2014年1月にAMDA、茅ヶ崎中央ロータリークラブ、現地NGOであるNational Rural Support Programme (NRSP)による第二回調査が行われた。調査では家族の健康管理の中心的な役割を担うのは女性であり、ポリオに関する教育を含む健康教育をすることの重要性が分かった。

そこで、日本の学校で通常行われている健康教育を受ける機会がないへき地に住む未婚女性を対象に「パキスタン家庭健康教育プログラム」をAMDA、茅ヶ崎中央ロータリークラブ、現地NGOの3者合同で実施するに至った。

【開始から現状調査】

2014年6月に茅ヶ崎で行われたプログラム調印式後から2015年2月までは準備期間で、調査や研修用教材の作成を行った。続いて現地NGOが中心となり、プログラム実施地域における健康に関する知識・意識調査を実施。講師用と受講者用の教材を開発し、講師の選考やプログラム対象者である未婚女性の登録も行った。

【中間報告】

プログラム開始から2年たった2016年8月、タッタ県サクプール地区・ミルプール・サクロにて、未婚女性に推奨した習慣がどのくらい地域に定着したかを評価するため、現地NGOが中心となって調査を行った。

調査の結果、知識の普及、習慣の改善は未婚女性だけではなく、その家族、地域にもみられることが分かった。字の読み書きができない人が大半を占め、講義も1つのトピックにつき60分から90分という限られた時間の中で行っている当プログラムにおいて、各項目で程度に差はあるものの改善傾向にある、という結果が出た。



一方で、課題もある。多くの新しい知識を短時間で教え、未婚女性に定着させるのは非常に難しく、今後もフォローアップを行っていく必要がある。また、個人の衛生観、栄養面などのトピックに関しては著しい改善が見られなかったため、さらなる取り組みが必要。現在の活動地では未婚女性が不足しているため、今後は、パキスタン南部のシンド州タンドムハマッドカンで活動を継続していく。

■モンゴル国視能訓練技術移転プラン事業

◇実施場所 モンゴル ウランバートル、ウブルハンガイ県グチンウス村

◇実施期間 2016年8月31日から9月5日

◇派遣者 高崎裕子/川崎医療福祉大学感覚矯正学科教授、守田好江/日本視能訓練士協会顧問、菅波茂/AMDA グループ代表、ドンラオ/AMDA シンガポール支部長、難波妙/AMDA GPSP 支援局長

◇現地事業チーム構成 AMDA モンゴル、モンゴル眼科協会、アイリスツアーズ

◇受益者数 グチンウス村幼児、小学生の167人と、中高生と成人の54人 ウランバートル市内19人

◇受益者の声

「遠くからわざわざ来ていただいた。目はとても大切」

◇現地協力団体 モンゴル保健省、保健局、教育局、人類愛善会モンゴルセンター、ウブルハンガイ県グチンウス村、City Optics

◇事業内容

AMDA は8月31日から9月5日までの6日間、モンゴルでの視能訓練技術移転事業を実施した。2010



年から毎年、日本から専門家を派遣して子どもの目の健康を守るためのセミナーや健診などを行っている。

今年で7回目となる今回は、モンゴルの首都ウランバートルから南西500キロにあるウブルハンガイ県グチンウス村で、子どもを中心とした眼科検診を実施した。その結果、小学生では外斜視4人、内斜視3人、目が揺れている眼振1人、角膜への傷が1人がいた。保護者からは「遠くからわざわざ来ていただいた。目はとても大切」と感謝の声が聞かれた。

9月3日にはウランバートル市内で、これまでの検診で問題があった子ども19人の再検査をした。この中に

は2年前に検診を受けた児童2人もいた。家庭と学校が協力して子どもの目を守る姿勢に、小さな手ごたえを感じた。

9月5日には、AMDA とモンゴル眼科協会主催の「子供の目の健康」についてのパネルディスカッションがモンゴル保健省で開かれた。子どもの眼科検診の必要性を社会に訴え、定期検診の制度化を目指す試み。

モンゴル保健省は就学前の眼科検診を約束し、健診の規定を策定するよう指示した。眼科協会会長のブルガン医師は、日本の支援者とAMDA に感謝の気持ちを示したうえで「AMDA と一丸となって尽力できたことを自らの喜びとしている」と述べた。AMDA もこれまでの事業が、モンゴル側の熱意とお互いの深い尊敬・信頼のパートナーシップのもとに続いていると実感している。

人材育成・研修事業

■ベトナム人研修生受け入れ

◇実施場所 岡山県岡山市、熊本県上益城郡益城町

◇実施期間 2016年5月1日から6日

◇招聘者 リュウ・トウイ・ホア

◇受益者数 1

◇受益者の声 AMDA はチームワークを活かし、患者の状態をそれぞれの視点から分析、意見交換したうえで、質の高い医療を目指している。今回の経験が無駄にならないように、これからも頑張っていこうと思います。

◇事業内容

日越関係などのリーガルアシスタントを務めるベトナムのリュウ・トウイ・ホアさんが2016年5月1日、研修生として



日本を訪問。震災で大きな被害を受けた熊本県益城町の避難所・広安小学校で3日から4日間、AMDA ボランティアとして活動した。

岡山の学生らと一緒にバスで広安小に到着。介護士の手伝いをしたり、トイレの清掃、段ボールベッドの組み立て、体育館の片づけなどに汗を流した。

ホアさんは「AMDA の医師や鍼灸師、介護福祉士らは患者の状態をそれぞれの視点から分析、意見交換をしたうえで、質の高い医療を目指すチームワークの良さを発揮していた。素晴らしい試みで勉強になった」と話した。

■アフリカ・ルワンダへ小児医療専門家を派遣 (平成 28 年度岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル 技術移転事業)

- ◇実施場所 ルワンダ国 キガリ州、西部州
- ◇実施期間 2016 年 9 月 3 日～9 月 11 日
- ◇派遣者 中原康雄医師 (国立病院機構岡山医療センター、岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業)、頼藤貴志医師 (岡山大学大学院環境生命科学研究科、AMDA 派遣)
- ◇受益者数 91 人
- ◇現地協力団体 ウムチョムウィーザ学園
- ◇受益者 (保護者) の声

この学校を皮切りに健診や母子保健手帳が広がっていくことに期待しているということや、親がしていけることは何でもしていきたい、病気の予防をしていきたいのでアドバイスを欲しい、虐殺もあったために心理的な面も保護者の方も抱えており心理的な面のサポートも必要かもしれない、など。

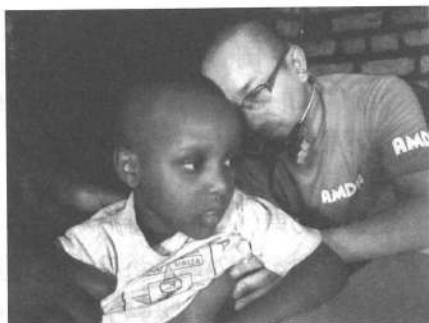
◇事業内容

9 月 5 日、岡山からルワンダ西端のルシジ郡に医師 2 人が訪れた。小児外科の中原康雄医師 (国立病院機構岡山医療センター、平成 28 年度岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業) と、小児科の頼藤貴志医師 (岡山大学大学院環境生命科学研究科、AMDA 派遣)。新生児や乳幼児らの死亡減少に向けた小児医療のレベルアップと、集団学校健診・母子手帳導入のためのルワンダ政府への働きかけが目的だった。

この活動にいたる背景として 1994 年 4 月、ルワンダ国内で勃発した民族紛争により、ルワンダの人口 750 万人のうち 50 万人が虐殺される事態となったことがある。死体が山積みとなった画像が世界に広がり、衝撃を与えた。

AMDA 岡山はカリタス岡山 (岡山カトリック教会の人権福祉団体) との合同事業として、多国籍医師団による緊急救援活動を実施。この紛争で当時、難民だったマリールイズさんは AMDA 医療チームと出会い、通訳として活動に参加。それ以来、現在まで AMDA との協力関係が続いている。

ルワンダ西部にあるミビリジ病院は、周産期医療を中心に開設された地域の総合中核病院。ベッド数 203 床、管轄エリア 30 万人に医療を提供しているが、医師 8 人



は全員が一般医で、小児科の専門知識を得る機会はほとんどなかった。今回は小児科疾患に関する講義を中心に、地方病院でも実施可能な超音波を利用した診断・治療が可能な話などを現地の医療従事者 35 人に行った。

9 月 7、8 日は首都キガリの幼稚園、小学校で、昨年に続き 2 回目の学校健診を実施。小児保健の現状を述べ、健診の必要性や診る項目について説明した。

その後、一行は保健大臣、厚生大臣と面会して意見交換をした。母子手帳の有用性や妊婦健診、予防接種など一連の健康管理の重要性を訴えると、大臣は意義について理解を示した。健診で見つけた病気の対応についても共通認識を得た。

■ネパール医師の研修員受け入れ事業

(平成 28 年度岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業)

- ◇実施場所 岡山済生会総合病院
- ◇実施期間 2016 年 9 月 5 日から 11 月 7 日
- ◇招聘者 ディウス・ラズ・ボホラ医師 (岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業)
- ◇現地協力団体 AMDA ネパール支部
- ◇受益者数 1
- ◇受益者の声

ディウス医師が日本で内視鏡の優れた技術を学ぶことができ、「貴重な機会をいただいたことに敬意を表します」と語った。また、「日本で身に着けた技術をネパールの患者の治療に専念したいと」話した。

◇事業内容

ネパールのディウス・ラズ・ボホラ医師が岡山市を訪れ、9 月 5 日から 11 月 7 日まで研修した。平成 28 年度の岡山県国際貢献ローカル・



トゥ・ローカル技術移転事業 (研修員受け入れ) の一環。

ディウス医師は首都カトマンズから約 500 キロ東にある AMDA ダマック病院に所属する内科医。高度な医療機器や診断、治療技術を持つ人材が不足しており、治療の困難な患者をカトマンズに紹介せざるを得ないのが実情だった。

ところが、同病院が在ネパール日本大使館から ICU 増設のための支援を受けることになり、ディウス医師は学んだ技術をネパールの医療従事者に広く普及させ、効果的な病院運営にも役立てるため来岡した。

ディウス医師は岡山済生会総合病院で内視鏡技術を中

心に ICU、循環器関係の研修を受けた。修了後、AMDA 本部を訪れ「身に付けた技術をネパールの人々のために生かしたい。残りの職業人生を消化器分野の医療に尽くす」と抱負を述べた。

■海外よりインターンシップ生受け入れ

- ◇実施場所 岡山県岡山市 (AMDA 本部)
- ◇実施期間 2016 年 1 月 10 日から 2 月 6 日
- ◇招聘者 キム・リャンヒョン (韓国 国立ハンバット大学 4 年生)
- ◇受益者数 1

◇受益者の声 短い期間でしたが私の考えに大きな影響を与える経験でした。将来は、韓国で日本と共に地震などの災害対応に関わる仕事をしたいと思いました。

◇事業内容

大学の研修制度で約 1 か月間、AMDA 本部で会計・翻訳・イベント参加などを経験した。キムさんは韓国でも近年、前例のない大きな地震が相次いで起こり、災害対応準備について深い関心を持っていたところ、国内外で起こる災害の救援活動をしている AMDA でのインターンシップを希望した。約 1 か月間、様々な業務に携わり、貴重な経験を積むことができたキムさんは話した。



2 月 5 日平成 28 年度全日本病院協会主催災害訓練の様子

動を行うため準備している。2016 年度から新たに事前交流も始まり、医療機関の方々と共に実際に支援に入る土地を訪れ、役場や指定避難所、交通網、地形などを確認している。実際に土地を訪れることで、支援に入る医療機関の方々に、より具体的な支援のイメージを持っていただいている。

■訪問

- ・4/25 黒潮町岡村一心堂訪問
- ・5/17 海陽町訪問
- ・5/24 徳島県訪問
- ・7/26-27 高知県訪問
- ・9/12 高知市訪問
- ・9/29 阿南市訪問
- ・12/7 呉海上自衛隊、海田陸上自衛隊訪問
- ・12/22 丸亀市訪問
- ・12/26-27 徳島県訪問
- ・1/31 徳島県訪問
- ・3/14 美波町訪問
- ・3/15 ムネ製薬訪問
- ・3/30 高知県協議会参加

■訓練

- ・4/29 美波町防災訓練
- ・6/14 海陽町まで電気自動車での走行テスト
- ・7/6 南海レスキュー 28 (自衛隊統幕・陸幕事業) 総社アクアセンター → ホウエツ病院ヘリポート
- ・9/1 徳島県防災訓練 (往復ヘリコプター 自衛隊・NEXCO・AMDA 合同) 高瀬パーキングエリア→海陽町文化センター (往) まぜの丘 →善通寺駐屯地 (復)
- ・2/5 平成 28 年度全日本病院協会主催災害訓練 (徳島県 ホウエツ病院)

AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

■第 3 回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム

- ◇実施場所 岡山県、香川県、徳島県、高知県など
- ◇実施期間 通年実施
- ◇事業内容

AMDA では、近い将来の発生が予想される南海トラフ巨大地震に備えて、発災時に迅速な支援活動を行うため事前の対応準備を進めている。南海トラフ巨大地震が発生した場合には、孤立しやすい四国の徳島県・高知県 10 か所の避難所に支援に入ることをすでに決定している。連携協定を結んでいる自治体や医療機関、経済団体と緊密に連携し、医薬品や食糧の事前備蓄、支援にかけつける医療機関と支援に入る徳島県・高知県の自治体との事前マッチング、事前交流などを進め、円滑に支援活

■医療機関と自治体事前交流

(四国へ)

- ・6/29-30 戸田中央医科グループ → 海陽町訪問
- ・11/16 福山医療センター → 牟岐町訪問
- ・11/21 倉敷成人病センター → 牟岐町訪問
- ・12/9 諸國眞太郎クリニック → 牟岐町訪問
- ・1/19 福山医療センター → 美波町訪問
- ・1/20 藤田病院 → 須崎市訪問
- ・3/7 川崎医大附属病院 黒潮町訪問

(四国から)

- ・9/29 黒潮町 → 川崎医大附属病院訪問
- ・12/19 牟岐町 → 福山医療センター、倉敷成人病センター訪問

会議・セミナーなど

■第3回災害鍼灸チーム育成プログラム

- ◇開催場所 岡山国際交流センター
- ◇開催日 2016年7月8日、9日(午前のみ)
- ◇主な参加者・団体 教育関係者、鍼灸師など
- ◇参加者数 29人
- ◇事業内容

大規模災害発生時の鍼灸治療の重要性が再認識される中で、AMDAは7月8、9日の両日、第3回



災害鍼灸チーム育成プログラムを岡山市内で開催。全国各地から参加した鍼灸師29人は、AMDAグループの菅波茂代表ら講師4人の講話に熱心に耳を傾けた。

菅波代表は、尊敬と信頼に基づく相互扶助ネットワーク構築の大切さを強調。「鍼灸師の方々は被災者の体をさすり、会話をすることで不安を取り除き、内部の力を揺り動かす大きなパワーを持っている」と述べた。

AMDA災害鍼灸代表世話人で、帝京平成大学(東京)の今井賢治教授は「頭痛や肩こりなどの症状軽減に鍼治療は有効だった」と熊本地震の被災者の調査データを基に説明。「多職種が連携した素晴らしい地域医療が出来たのではないかと医療チームの活動を高く評価した。

AMDA大槌健康サポートセンター長の佐々木賀奈子鍼灸師は、東日本大震災で津波にのみ込まれ、奇跡的に助かった体験を語り「鍼灸治療を続けるのが私の生きている証。自分の思いを若い世代に伝えていきたい」と話した。

高橋徳医師(AMDA災害鍼灸世話人、総合医療クリニック

院長、愛知県在住)は鍼灸のメカニズムを分かりやすく解説し、「大きな可能性を秘めた治療法」と指摘した。熊本鍼灸チームの吉井治鍼灸師、松村幸子鍼灸師、木下直子鍼灸師、山下千晴鍼灸師も熊本での活動を報告した。

■第3回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム 調整会議

- ◇開催場所 岡山国際交流センター
- ◇開催日 2016年7月9日
- ◇主な参加者・団体 県内外の自治体職員、医療機関関係者、企業関係者など
- ◇参加者数 約270人
- ◇事業内容

AMDAは2月9日、南海トラフ災害に備えた第3回調整会議を岡山市内で開き、岡山、香川、徳島、高知県の14自治体をはじめ全国の医療・教育機関、海外のNGOなど約70団体270人が具体的な対応策を協議した。



議長は総社市の片岡聡一市長、丸亀市の梶正治市長、AMDAグループの菅波茂代表が務め、会議は3部構成で行われました。

第1部では、福島県相馬市長で医師の立谷秀清氏が東日本大震災の現状と課題について基調講演。続いて、台湾と韓国、シンガポールの代表が「南海トラフ災害に積極的に支援したい」と決意を表明した。

第2部はAMDAの難波妙理事(熊本県益城町出身)らが被災地のコーディネーション、テント村と自治体連携などについて話した。

第3部では、菅波代表がAMDAと総社、丸亀市、岡山経済同友会による合同対策本部について言及。岡山大学大学院環境生命科学研究科の新藤貴志准教授が伊方原発を視野に入れ「原子力災害による被ばく対策」について話した。

なお、災害看護授業の一環として、福山医師会看護専門学校と、岡山建部医療福祉専門学校の学生も聴講した。

■第4回国際医療貢献フォーラム

- ◇開催場所 岡山国際交流センター
- ◇開催日 2016年7月24日
- ◇主な参加者・団体 IHD協同組合、社会福祉法人旭川荘、アジア有機農業連携活動推進協議会、AMSA Japan、AMDA-MINDS、岡山県立大学、一般社団法人

国際フロンティアメディカルサポート、済生会支部岡山
県済生会、NPO法人 歯科ネットワーク岡山から世界
へ、大紀産業株式会社、医療法人高杉会 高杉こどもク
リニック、NPO法人日本・ミャンマー医療人育成委員会、
広島大学大学院、長崎大学熱帯医学研究所、瀬戸健康管
理研究所・丸亀診療所、岡山大学大学院、OKPC 岡山・
倉敷フィリピンサークル、ILOHA

◇参加者数 140人

◇事業内容

AMDAが提唱し
ている国境を越えた
人道支援のための
構想「西のジュネー
ブ・東の岡山」を論
議する第4回国際医
療貢献フォーラム



(岡山県共催)が7月24日、岡山市内で開かれ、構想の
実現に向けて産官学が連携して具体的な取り組みを進め
る「国際医療貢献プラットフォーム」の設立を決めた。

医療機関や自治体、企業、NGO(非政府組織)など
46団体、140人が出席。岡山経済同友会の松田久代表
幹事が「国際機関が集積するジュネーブ(スイス)と都
市間協定を締結することで、緊急支援基地としての岡山
の存在を世界に発信してほしい」と構想実現に期待の言
葉を述べた。

AMDAグループの菅波茂代表は「地域単位で活動する
世界のローカルNGOのハブ(拠点)を岡山につくるこ
とが出来たので、一層の国際貢献と地域創生を目指した
い」と意欲を示した。

続いて、岡田茂・元岡山大医学部長、佐野俊二・岡
山大医学部教授、菅波代表、松田代表幹事の4人が教育、
先端技術、人道支援、ミッション産業についての取り組
みを報告。出席者と質疑応答を交えて話し合う鼎談も行
われた。

フォーラムの締めくくりとして、国際医療貢献フォー
ラム代表世話人を務める佐野教授が今後の方針を説明。
「西のジュネーブ・東の岡山」構想の実現に向けたプラ
ットフォームの設立を呼び掛けると、会場から大きな拍
手があった。

参加者からは「平和の発信基地として、岡山が日本の
中心的な役割を担ってほしい」との声が聞かれた。

■岡山県立大学公開講座 第13回災害セミナー

◇実施場所 岡山国際交流センター

◇実施期間 2016年8月28日

◇主な参加者・団体 岡山県立大学大学院生、相生市看

護専門学校、一般市民

◇参加者数 約90人

◇事業内容

AMDAと岡山
県立大学大学院
(総社市)による
「第13回災害セ
ミナー」が8月
28日、岡山市
北区の岡山国際



交流センターで開かれ、参加した約90人は緊急医療支
援活動に取り組んだ医師らの講演に熱心に耳を傾けた。

講演は、AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム運
営委員会副委員長の佐藤拓史医師が熊本地震の被災地
での活動に触れ、「医療者にとって最も大切なことは“救
命”。次に避難者が何を望んでいるかを推察することが
求められる」と強調。「医療チーム全員が“五感”を使っ
て協力し合うことが災害医療」と述べました。

続いて、AMDAプロジェクトオフィサーの大政朋子(兵
庫県在住)が鍼灸治療について「東日本大震災でAMDA
が初めて導入、熊本地震でも実施した。肩こりや不眠な
どに悩む被災者に効果があり、非常に好評だった」と調
査データを基に説明。

AMDA 中学高校生会の代表6人も登壇し、災害に組み
込む3要素として「正しい現状認識」「災害に対する危機感」
「問題を解決する自覚」を挙げ、自ら主体的に行動する
ことの重要性を訴えた。

質疑応答もあり、会場から「経験に基づいた講話は説得
力があり、感銘を受けた」「災害が風化しないよう、今
後も何が出来るかを考え続けたい」との声が上がった。

■岡山県平成28年度国際貢献ローカルトゥ ローカル事業派遣活動報告会

◇実施場所 岡山国際交流センター

◇開催日 2016年10月23日

◇主な参加者・団体 自治体職員、医療機関関係者、学
生など

◇参加者数 約20人

◇事業内容

岡山医療セン
ター小児外科医
長の中原康雄医
師がアフリカ・
ルワンダでの学
校健診結果を基
にした「小児医
療の現状」と題した講演を、岡山国際交流センターで行っ



た。

中原医師は、AMDA が申請した岡山県平成 28 年度国際貢献ローカルトゥローカルの事業派遣としてルワンダに行った。

中原医師は9月4日から9日までルワンダを訪問。

学校健診が行われていない同国では日本人として2回目となる健診を実施したほか、小児外科医療への支援と医学知識の伝達、母子健康手帳の導入へのサポートなどに尽力したことを発表した。

訪問したミビリジ病院では多数の患者に対し医師が極端に少なく、心電図などの機器も整備されていない現状を指摘。

新生児の死亡原因は早産、仮死状態、感染症などが上位を占めるデータを示した。

厚生大臣や教育大臣とも面会し、健診と母子健康手帳の重要性を説明し、理解を得られたと述べた。

■ AMDA インターナショナル アジア地域支部長会議

◇実施場所 マレーシア クアラルンプール

◇実施期間 2016年12月1日、2日

◇主な参加者・団体 菅波茂 /AMDA グループ代表、難波妙 /AMDA GPSP 支援局長、岩本智子 /AMDA 本部職員、橋本千明 /AMDA 本部職員、アルチャナ・シュレスタ・ジョシ /AMDA 本部職員、AMDA 海外支部長およびその関係者

◇参加者数 29人

◇事業内容

AMDA インターナショナルアジア地域支部長会議が2016年12月1日から2日間の日程で、マレーシアの首都クアラルンプールで開かれ、AMDA の世界に広がるネットワークをさらに拡大する「相互扶助ミッション宣言」を全会一致で採択した

具体的には「世界平和パートナーシップ (GPSP)」「南海トラフ災害対応プラットフォーム」「アジア災害ネットワーク」「トリプルAパートナーシップ・プログラム (TAPP)」の四つのプログラム。

いずれも“開かれた相互扶助”の精神を体現した取り組みで、今後のAMDAの活動の中核をなすものとなる。会議には12カ国から29人の支部長と関係者が出席。



AMDA グループの菅波茂代表は「より多くの団体と協力できれば、より多くの人のお役に立つことができる」と訴えた。

【世界平和パートナーシップ】

人道支援におけるAMDAの新しい総合事業。「開かれた相互扶助」「パートナーシップ」「ローカルイニシアチブ」の三つのコンセプトの下、これに賛同するプロジェクト実施パートナーと支援者が一丸となり、持続可能で平和な社会を実現していくための包括的な枠組み。AMDAの30年間に及ぶ経験を集積した構想であり、将来の指針となる。

【南海トラフ災害対応プラットフォーム】

今後、数年以内で高い確率で発生すると予想される南海トラフ大地震に備えた組織。今回、菅波代表はこの災害に備えAMDA本部が各自治体や医療機関と緊密に連携を図っていることを説明した。

【アジア災害ネットワーク】

災害発生時に重要な役割を果たすもう一つの枠組み。菅波代表は政府、NGO、医師会が持つそれぞれの強みについて言及し「この三つの組織がそれぞれ連携していくことこそ、災害時の円滑な救援活動を可能にする」と述べた。

【トリプルAパートナーシップ・プログラム】

トリプルAとは、AMDAとAMSA(アジア医学生連絡協議会)、AMSA Alumni Club(AMSA OB会)を指します。AMDAの人道支援分野でこれまで蓄積した知識と技術、経験を次世代に引き継いでいくことを目的とし、三つの組織が連携することで医学を志す若者に、人道支援に携わる機会を与え、実学の機会を提供していく試み。

■ 第4回食糧と人道支援シンポジウム

◇実施場所 国際交流センター

◇実施期間 2016年12月17日

◇主な参加者・団体

AMDA 支援農場ならびに協力者の方々

◇参加者数 約25人

◇事業内容

南海トラフ地震を見据えたAMDA主催の「第4回食糧と人道支援シンポジウム」が12月7日、岡山市内で開かれ、地震の準備状況を共有し食糧支援の在り方を協議した。

AMDA グループの菅波茂代表が基調講演し、国内外の過去の地震の課題や反省点を振り返った後、「南海ト



ラフ地震は被害が広範囲で大規模なうえ、対応が長期化する」と指摘。食糧や医薬品の事前備蓄と、相互信頼を構築するため被災予定地との事前交流の大切さを強調した。

続いて、AMDA 支援農場の人たちがパネラーとして出席し「食と人道支援 起こりうる南海トラフ地震津波に備えて」と題して協議。「津波に安全な地区に倉庫を確保し、あらかじめコメを備蓄してはどうか」など建設的な意見が相次いだ。

また、東日本大震災後に路上生活者へ食事支援を行っている NPO 法人「仙台夜回りグループ」などへコメの目録贈呈も行われた。

■スリランカ紛争後復興支援活動報告会

◇実施場所 岡山国際交流センター

◇開催日 2016年12月18日

◇主な参加者・団体 在大阪スリランカ名誉総領事館、教育関係者、岡山県庁、岡山市役所、広島大学、AMDA 中学高校生会など

◇参加者数 約100人

◇事業内容

12月18日、岡山国際交流センターで「AMDA 中学高校生会の活動からみる平和構築プログラム—スリランカ



紛争後復興支援活動—」を開催した。

AMDA が実施しているスリランカでの平和構築プログラムの報告とともに、内戦停戦後の2003年からスリランカでの平和構築交流事業を断続的に行っている「AMDA 中学高校生会」の活動報告会を行った。

在大阪スリランカ名誉総領事館のD・W・アルッガマゲ名誉総領事が「日本と我々が手を携えて人類の威厳を十分に満たし、平和と繁栄に前進することを祈念します」と祝辞を述べられた。

AMDA グループの菅波代表がスリランカ支援の経緯と意義を説明し「今後も平和構築活動を通じ、さらに両国の信頼感を醸成したい」と述べた。

AMDA 中学高校生会からは、まず、2016年夏にスリランカを訪れたメンバー2人から、平和構築プログラムでスポーツ、文化、宗教の3部門で交流した活動内容を報告。「言葉は通じなくても心は通い合う。お互いを知ることが平和への第一歩」と述べた。

さらに AMDA 中学高校生会メンバーらが考えた、平和構築のポイントを発表した。お互いの違いを認め尊重

し合う“多様性の共存”と、自分を愛し他人も愛する“愛の連鎖”の大切さを強調。子どもらしい素直な感性とはきはきとした話しぶりに会場の約100人から大きな拍手がわいた。

■ドキュメンタリー映画「東北の新月」 上映会と報告会

◇実施場所 オルガホール岡山

◇実施期間 2017年2月17日

◇共催 おかやまコープ

◇主な参加者・団体 おかやまコープ会員ならびに支援者の方々

◇参加者数 約100人

◇事業内容

日系3世のカナダ人監督で弁護士のリンダ・オオハマさんが制作したドキュメンタリー映画「東北の新月」の上映会と、映



画にも登場した AMDA 大槌健康サポートセンター長の佐々木賀奈子鍼灸師の報告会が2月17日、岡山市のオルガホール岡山で開かれた。

東日本大震災を風化させてはならないという思いから映画作りをしたというリンド監督は震災後、単独来日し、被災地でボランティア活動に従事。出会った人々との交流をまとめた。

佐々木鍼灸師は岩手県大槌町在住。震災で自宅兼鍼灸院が全壊し、自らも津波にのみ込まれた体験を持つ。報告会では「震災で崩れたコミュニティーを取り戻すことが必要。大槌町も人を思いやる気持ちが徐々に戻ってきている」としたうえで、「皆様からの支援に感謝し、万一の際は恩返しをしたい」と述べた。

上映会と報告会は AMDA が主催、おかやまコープが共催。午前と午後の2回開催され、約100人が入場した。

■東北三陸沿岸地域から学ぶ南海トラフ地震への備え 被災地間相互交流公開フォーラム

◇実施場所 岡山県生涯学習センター

◇実施期間 2017年2月28日

◇主な参加団体 AMDA、気仙沼復興商店街、南三陸さんさん商店街、高田大隅つどいの丘商店街、リボン相馬、おがつ店こ屋街、美波町役場、美波町国民健康保険美波病院、岡山市役所、赤磐市役所、白鳳会、藤田病院、



岡山建部医療福祉専門学校、赤穂中央病院、AMDA 福山クラブ

◇参加者数 70人

◇事業内容

東日本大震災の被災地の方々による津波の経験と教訓から、南海トラフ地震の備えを考える「公開フォーラム」(AMDA 主催)が2月28日、岡山県生涯学習センターで開かれた。

宮城県気仙沼復興商店街副理事長の坂本正人さんが、被災商店街と地域の復興の現状を説明、被災の状況に即した補助金の適切な運用の大切さを訴えた。

南海トラフ地震で大きな被害が想定される徳島県美波町の職員は「事前復興まちづくり」の取り組みについて報告。津波を恐れて若者が事前に引越す“震災前過疎”を食い止めるため、高地での住宅地開発プランを提示するなど古里の将来像を町民全体で共有するよう努めていると話した。

フリーディスカッションでは東北商店街の代表ら12人が出席。「郷土芸能の復活で被災地の住民が団結した」「日頃の“顔の見える関係”が復興を支えた」と語るなど地域コミュニティの大切さを強調した。

AMDA の海外支部が主体として実施している事業

■ネパール

ブータン難民・ネパール地元民医療支援事業

◇実施場所 ネパール・メチ県ジャバ群ダマック市

◇実施期間 1992年～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA ネパール支部

◇診療科

一般科、外科、産婦人科、歯科、眼科、放射線科

◇スタッフ数 132人(うち医師19人、看護師34人)

◇事業内容

AMDA ネパール支部を実施主体として、1992年からメチ県ダマック市で、ブータン難民と地元双方を医療支援の対象として事業している。

2016年度の外来患者数は2万人以上。年間分娩数は6千件を超える。ダマックのAMDA病院が、ブータン難民と地元住民のリファール病院(上位紹介病院)として機能している。1995年から国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の委託事業となっている。



現在、事業は母子健康とHIV/性感染症予防事業、難民キャンプ内のヘルスケア事業、人材育成など他分野にわたる。

また、在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ICUユニットの増設プロジェクトが継続している。2017年の完成予定。

また、在ネパール日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ICUユニットの増設プロジェクトが継続している。2017年の完成予定。

■ネパール

シッダールタ母と子の病院事業 (通称：ネパール子ども病院)

◇実施場所 ネパール

◇実施期間 1998年～継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDA ネパール支部

◇診療科

小児科、新生児科、産婦人科、女性内科

◇病床数

100床(小児科、新生児科、産婦人科)

◇スタッフ数 149人(うち医師22人、看護師51人)

◇事業内容

1998年11月、阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の協力により設立された、首都以外では唯一の母子専門病院。



設計は安藤忠雄建築

事務所がボランティアで協力。ネパール南西部のタライ平野に位置するプトワル市に設置。高い医療サービス提供が定評で、地元からだけでなく100km以上離れた地域から訪れる患者もいる。毎月3千人以上の外来患者に対応し、1日の分娩数は8人以上となっている(2015年度)。

2011年8月から新たな周産期病棟(2階建て)の建設を開始し、2012年11月に完成した。新病棟では陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できるよう配慮している。

AMDA 中学高校生会 2016年度の活動

ほぼ県内の中学生、高校生を中心に36名はボランティア活動や国際問題にも目を向けた活動を進めている。毎月1回以上の定例会を持ち、計画や内容を話し合い活動している。今年度の主な活動については以下のとおり。



平成28年度高校生 「地域防災ボランティアリーダー」養成研修 岡山県教育委員会主催

8月2日、5日、9日 岡山県内3つの各高校(津山、岡山御津、倉敷青陵)で防災に関する理解を深め、災害時様々な活動で社会貢献できる人材を育成するための研修が行われた。



AMDA 中学高校生会からは延べ15人が参加し「高校生にできること」と題し東日本大震災における復興支援活動の体験や防災・災害時・復興時に若者がどのように取り組めばいいのかについて発表した。

AMDA スリランカ紛争後復興支援平和構築プログラム青少年交流事業



7月27日から8月3日の1週間、昨年度に続きAMDA 中学高校生会メンバー2人がスリランカを訪問し現地の学生たちと交流事業に参加した。今年度はスリランカの、トリンコマリーで開催され、スリランカ国内か

ら民族宗教の異なる中学生たち73人が、3つの地域の学校から73人が集まり活動した。参加者全員で仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教の各施設を訪問しお互いの宗教を知る宗教プログラム、スポーツプログラムでのバレーボールの試合、ダンスやキャンプファイアー、そして文化交流でAMDA 中学高校生会からは生け花と篠笛の日本文化を紹介した。この事業を通じて国、民族、宗教、文化を超え交流しお互いを理解することで平和構築の第一歩に繋がることを強く感じた。

AMDA 中学高校生会の活動からみる平和構築プログラム—スリランカ紛争後復興支援活動—

12月18日、今年度スリランカ平和構築プログラム交流事業の報告会を岡山国際交流センターで岡山県国際貢献推進協議会共催、岡山市、岡山市教育委員会後援で開催した。在大阪スリランカ民主社会主義共和国D.Wアルツマゲ名誉総領事、岡山県、岡山市から来賓として迎え、それぞれ挨拶いただいた後「医療和平」のコンセプトと平和構築について菅波茂AMDAGループ代表が話した後、このプログラムの担当者ニッティヤン・ヴィラヴァーグ職員(スリランカ出身)からこのプログラムの出会いと活動内容の報告があった。

その後、このプログラム参加のためにスリランカを訪問したAMDA 中学高校生会メンバー2人は活動実践報告し、他のメンバーはこれからの平和についての取り組みを報告した。最後に広島大学大学院国際協力研究科准教授山根達郎先生から活動の意義と評価をお話いただいた。今回の経験を基に「平和」について今後もAMDA 中学高校生会の大きな活動として取り組みたい。



その他の活動

- ・4月 復興グルメF-1 南相馬大会参加
- ・10月 復興グルメF-1 石巻大会参加
- ・3月 復興グルメF-1 南三陸町大会参加
- ・5月 熊本地震被災者に対する街頭募金
- ・8月 岡山県立大学集中講義での発表(中学生・高校生にできる災害への取り組み)等

AMDA 団体概要

所在地	〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3丁目31-1
設立年月日	1984年8月
	国連経済社会理事会「総合協議資格」取得 2006年 認定 NPO 法人に認証 2013年5月8日付
AMDA グループ構成団体	認定 特定非営利活動法人アムダ：AMDA AMDA インターナショナル（任意団体） 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター アムダ国際福祉事業団 AMDA 兵庫（任意団体）
海外活動	緊急医療支援、復興支援、合同医療ミッション、スポーツ親善交流、ASMP、 セミナー開催等
活動国	日本、フィリピン、インド、モンゴル、スリランカ、カンボジア、バングラデシュ、 ネパール、インドネシア 他
国内活動	出張講演、大学講義受託、活動報告会・セミナー開催、 AMDA 中学高校生会、イベント参加 等 南海トラフ地震対応医療チーム派遣準備
AMDA 支部	沖縄支部、神奈川支部
AMDA クラブ	大槌、鎌倉、高知、玉野、福山、竹原、神女（神戸女子大学） 各クラブ
スタッフ	常勤12人 非常勤5人 嘱託7人
会員数	824人
ER ネットワーク登録者数	695人

2017年7月1日現在

認定 特定非営利活動法人 アムダ 役員

理事長	菅波 茂	認定特定非営利活動法人アムダ
理事	大土 吉子	元岡山県生活環境政策スタッフ
理事	菅波 知子	医師
理事	中西 泉	医師 医療法人社団慶泉会町谷原病院 理事長
理事	難波 妙	認定特定非営利活動法人アムダ GPSP 支援局長
理事	難波比加理	認定特定非営利活動法人アムダ 財務部長
理事	野島 治	元倉敷市教育委員会 嘱託啓発指導員・小学校校長
監事	渡丸 弘之	公認会計士

2017年7月1日現在

※多くのボランティアの皆様を支えられて様々な活動を実施することができました。
心より感謝申し上げます。

国内の動き

■大学講義

福山市医師会看護専門学校、神戸女子大学、岡山建部医療福祉専門学校、岡山大学、高知大学、福山医療センター、ノートルダム清心女子大学、岡山労災看護専門学校、玉野医療専門学校、就実大学、岡山県立大学、相生看護専門学校、四国医療専門学校、順正高等看護福祉専門学校、山陽学園、山口県立大学、旭川荘厚生専門学校、福岡県立大学、大学コンソーシアム岡山（講義時系列）

■出張講演

玉島高校、乙島自治区コミュニティ、津山東高校、第 65 回公益社団法人全日本鍼灸学会学術大会 北海道大会、浦安小学校、笠岡中央小学校、笠岡市、玉野光南高校、真庭高校、立正佼成会、倉敷中央高校、おかやまコープ西エリア、井原中学校、おかやまコープ備北エリア、岡山県国際交流協会、岡山市立芳明小学校、岡山一宮高校、浅口市立金光中学校、倉敷中央高校、岡山城東高校、倉敷翠松高校、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会青年部、岡山県訪問看護ステーション連絡協議会、山陽老人福祉センター みのり荘、岡山市鍼灸マッサージ会、倉敷市立北中学校、倉敷市立真備東中学校、岡山操山中学校、玉野ロータリークラブ、おかやまコープ備北エリア、岡山市立西大寺南小学校、岡山市立平津小学校、おかやまコープ岡山東エリア、岡山市立石井小学校、おかやまコープ美作エリア

■国内 連携協力協定調印

・特定非営利活動法人航空医療研究所と AMDA との連携協力に関する協定	5月29日
・独立行政法人国立病院機構福山医療センターと AMDA との連携協定	5月30日
・備前市と AMDA との連携協力に関する協定	5月31日
・和気町と AMDA との連携協力に関する協定書	7月4日
・AMDA と公益社団法人岡山県看護協会との連携協力に関する協定書	7月5日
・吉備学区連合町内会と AMDA との緊急人道支援活動推進にむけての連携に関する協定	7月6日
・学校法人川崎学園と AMDA との連携協力に関する協定	7月6日
・倉敷平成病院と AMDA との連携協力に関する協定書	10月11日
・赤磐市と AMDA との連携協力に関する協定	12月21日
・医療法人創和会しげい病院と AMDA との連携協力に関する協定	2月1日

協定に基づく協議会開催

・高知県、高知市、須崎市、黒潮町

協定に基づく研修会協力

・美波町

■研修受け入れ

- ・ディウス・ラズ・ボホラ医師（平成 28 年度の岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル移転事業で招聘）
- ・リュウ・トゥイ・ホア（ベトナム人研修生）

■インターンシップ受け入れ

- ・高木祐志 2015 年度～6月30日
- ・野山貴弘（就実大学）10月1日～1月31日
- ・キム・リャンヒョン（韓国国立ハンパッド大学）1月10日～2月6日

■主な主催事業

・復興グルメ F-1 大会ボランティアバス（第 12 回～14 回）	4、9、3月
・AMDA 連携野土路農場田植え、収穫祭	5、9月
・第 3 回南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議	7月
・第 3 回災害鍼灸チーム育成プログラム	7月
・第 4 回国際医療貢献フォーラム	7月
・第 4 回食糧と人道支援シンポジウム	12月
・「東北の新月」上映会	2月
・東北三陸沿岸地域から学ぶ南海トラフ地震への備え 被災地間相互交流公開フォーラム	2月

■主なイベント参加

・ザグフェス 2016	5月
・おかやまコープフェスタ	9月
・第 60 回洋蘭展	1月
・ワン・ワールドフェスティバル	2月
・ひょうご・こうべ・ワールド・ミーツ	2月
・備前焼作家による東日本復興支援チャリティーイベント	3月

活動計算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 アムダ
(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	450,000	
医師会員受取会費	1,185,000	
一般会員受取会費	4,310,000	
学生会員受取会費	21,000	
法人会員受取会費	1,050,000	
賛助会員受取会費	546,000	7,562,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	248,278,845	248,278,845
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	2,404,818	
受取地方公共団体補助金	14,040	2,418,858
4. 事業収益		
事業収益	212,620	
業務受託収益	3,695,000	3,907,620
5. その他収益		
受取利息	9,255	
雑収益	1,700	10,955
経常収益計		262,178,278
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	36,562,169	
法定福利費	5,392,625	
福利厚生費	257,645	
派遣費	1,709,743	
人件費計	43,922,182	
(2) その他経費		
業務委託費	15,673,520	
諸謝金	76,843	
印刷製本費	3,768,309	
会議費	871,250	
旅費交通費	28,070,656	
車両維持費	665,008	
通信運搬費	4,889,176	
消耗品費	11,015,677	
渉外費	1,187,183	
修繕費	25,596	
水道光熱費	498,087	
賃借料	5,580,361	
減価償却費	520,409	
保険料	1,038,541	
諸会費	31,000	
租税公課	50,601	
研修費	121,742	
広告宣伝費	877,680	
支払手数料	149,516	
支払助成金	2,700,000	
支払義援金	1,306,000	
新聞図書費	15,228	
燃料費	201,590	

科 目	金 額		
医療消耗品費	3,006,140		
栄養給食費	1,369,879		
災害等救援費	2,865,928		
活動器材費	59,417		
農業関連費	24,592		
為替差損	51,525		
雑費	140,914		
その他経費計	86,852,368		
事業費計		130,774,550	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	4,508,800		
法定福利費	726,601		
派遣費	113,932		
福利厚生費	117,233		
人件費計	5,466,566		
(2) その他経費			
業務委託費	1,274,400		
印刷製本費	254,890		
会議費	23,049		
旅費交通費	485,111		
通信運搬費	362,420		
消耗品費	2,069,616		
渉外費	238,692		
修繕費	136,000		
水道光熱費	79,496		
賃借料	947,853		
減価償却費	449,731		
保険料	165,898		
諸会費	26,000		
租税公課	51,523		
支払手数料	902,832		
新聞図書費	83,206		
燃料費	24,759		
為替差損	31,754		
雑費	38,400		
その他経費計	7,645,630		
管理費計		13,112,196	
経常費用計			143,886,746
当期経常増減額			118,291,532
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
1. 固定資産除・売却損			
固定資産除・売却損	8,074	8,074	
経常外費用計			8,074
税引前当期正味財産増減額			118,283,458
当期正味財産増減額			118,283,458
前期繰越正味財産額			419,342,827
次期繰越正味財産額			537,626,285

※今年度はその他の事業を実施していません。

貸借対照表

平成 29 年 3 月 31 日 現在

特定非営利活動法人 アムダ
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	350,249,472		
未収金	14,040		
棚卸資産	2,267,289		
前払金	882,023		
前払費用	4,963,644		
仮払金	2,752,949		
流動資産合計		361,129,417	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	5,971,662		
車両運搬具	412,384		
什器備品	5,051,106		
建物附属設備	719,250		
減価償却累計額	△ 4,342,704		
有形固定資産計	7,811,698		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
リサイクル預託金	11,630		
敷金	60,000		
緊急人道支援特定預金	57,000,000		
東日本震災特定預金	80,844,700		
東日本奨学特定預金	932,572		
プロジェクト準備金	35,747,440		
投資その他の資産計	174,596,342		
固定資産合計		182,408,040	
資産合計			543,537,457
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	5,785,843		
前受金	30,000		
預り金	95,329		
流動負債合計		5,911,172	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,911,172
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		419,342,827	
当期正味財産増減額		118,283,458	
正味財産合計			537,626,285
負債及び正味財産合計			543,537,457

財産目録

平成 29 年 3 月 31 日 現在

特定非営利活動法人 アムダ
(単位：円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	3,414,231		
普通預金	333,162,251		
定額預金	10,000,000		
外貨預金	3,672,990		
未収金	14,040		
棚卸資産	2,267,289		
前払金			
図書製本費	225,000		
通信費	1,543		
賃借料	640,080		
保険料	15,400		
前払費用	4,963,644		
仮払金	2,752,949		
流動資産合計		361,129,417	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	5,971,662		
車両運搬具	412,384		
什器備品	5,051,106		
建物附属設備	719,250		
減価償却累計額	△ 4,342,704		
有形固定資産計	7,811,698		
(2) 無形固定資産			
無形固定資産計	0		
(3) 投資その他の資産			
リサイクル預託金	11,630		
敷金	60,000		
緊急人道支援特定預金	57,000,000		
東日本震災特定預金	80,844,700		
東日本奨学特定預金	932,572		
プロジェクト準備金	35,747,440		
投資その他の資産計	174,596,342		
固定資産合計		182,408,040	
資産合計			543,537,457
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
業務委託費	269,800		
通信運搬費	237,637		
消耗品費	185,480		
旅費交通費	463,420		
法定福利費	522,269		
給与	3,603,556		
保険料	212,770		
立替金	6,160		
印刷製本費	284,751		
前受金	30,000		
預り金	95,329		
流動負債合計		5,911,172	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			5,911,172
正味財産			537,626,285

2016年度 計算書類の注記

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2011年11月20日 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法により評価を行っています。

2、事業別損益の状況

科 目	低開発地域等における 社会開発事業	緊急人道支援事業	災害救援事業 (東日本救援事業)	災害救援事業 (東日本奨学金事業)	平和構築モデルの開発と 運営に関する事業	各種会議、講演会、講座 等の企画運営事業
I 経常収益						
1. 受取会費						
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0
医師会員受取会費	0	0	0	0	0	0
一般会員受取会費	0	0	0	0	0	0
学生会員受取会費	0	0	0	0	0	0
法人会員受取会費	0	0	0	0	0	0
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0
2. 受取寄附金						
受取寄附金	2,759,022	107,397,814	2,795,494	556,641	5,000	0
3. 受取助成金等						
受取民間助成金	0	1,679,143	60,206	93,528	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益						
事業収益	0	24,000	2,160	0	0	0
業務受託収益	0	0	0	0	0	0
5. その他収益						
受取利息	0	0	2,294	0	0	0
為替差益	11,401	1	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0
経常収益計	2,770,423	109,100,958	2,860,154	650,169	5,000	0
II 経常費用						
1. 事業費及び管理費						
(1) 人件費						
給料手当	3,360,000	25,710,852	3,631,317	0	0	0
法定福利費	522,083	3,835,474	579,590	0	0	0
福利厚生費	8,334	196,324	30,875	0	0	0
派遣費	739,095	577,551	75,954	0	0	0
人件費計	4,629,512	30,320,201	4,317,736	0	0	0
(2) その他経費						
業務委託費	0	7,865,156	4,608,364	0	0	0
諸謝金	1,137	54,548	4,454	0	0	0
印刷製本費	0	200,340	864,903	0	0	10,800
会議費	100,699	282,105	145,723	0	0	237,413
旅費交通費	3,627,281	17,024,061	3,157,217	0	70,525	484,463
車両維持費	0	632,208	32,800	0	0	0
通信運搬費	351,895	2,420,732	565,165	0	1,058	5,871
消耗品費	326,954	9,955,361	391,823	0	0	16,688
渉外費	136,435	733,155	215,507	0	6,544	0
修繕費	25,596	0	0	0	0	0
水道光熱費	9,918	192,305	295,864	0	0	0
賃借料	2,900	3,156,588	2,270,249	0	0	84,300
減価償却費	0	34,920	485,489	0	0	0
保険料	44,986	609,555	114,810	0	0	0
諸会費	0	31,000	0	0	0	0
租税公課	0	450	48,151	0	0	0
研修費	44,940	13,082	0	0	0	0
広告宣伝費	24,480	847,800	5,400	0	0	0
支払手数料	21,134	60,054	32,426	5,718	11,500	0
支払助成金	0	0	0	2,700,000	0	0
支払義援金	306,000	1,000,000	0	0	0	0
為替差損	2,267	44,848	0	0	50	0
新聞図書費	0	7,608	7,620	0	0	0
燃料費	0	183,719	16,076	0	0	0
医療消耗品費	405,367	2,571,859	4,527	0	24,387	0
栄養給食費	0	880,860	392,395	0	1,060	0
災害等救援費	585,285	2,280,643	0	0	0	0
活動器材費	0	0	59,417	0	0	0
農業関連費	0	0	0	0	0	0
雑費	41,300	26,014	73,600	0	0	0
その他経費計	6,058,574	51,108,971	13,791,980	2,705,718	115,124	839,535
経常費用計	10,688,086	81,429,172	18,109,716	2,705,718	115,124	839,535
当期経常増減額	△ 7,917,663	27,671,786	△ 15,249,562	△ 2,055,549	△ 110,124	△ 839,535
III 経常外費用						
固定資産除・売却損	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 7,917,663	27,671,786	△ 15,249,562	△ 2,055,549	△ 110,124	△ 839,535
前期繰越正味財産額	△ 9,442,875	29,328,214	96,094,262	2,988,121	△ 4,180,062	△ 5,641,653
次期繰越正味財産額	△ 17,360,538	57,000,000	80,844,700	932,572	△ 4,290,186	△ 6,481,188

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産については間接法による定額法により減価償却を行っています。無形固定資産については直接法による定額法により減価償却を行っています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によつています。

特定非営利活動法人 アムダ

(単位：円)

各種調査研究、教育、 研修事業	情報誌並びに対外的 広報誌及び書籍の刊行	有機農業及び有機農業 の推進に関わる事業	事業部門計	管理部門計	合計
0	0	0	0	450,000	450,000
0	0	0	0	1,185,000	1,185,000
0	0	0	0	4,310,000	4,310,000
0	0	0	0	21,000	21,000
0	0	0	0	1,050,000	1,050,000
0	0	0	0	546,000	546,000
10,325	0	320,000	113,844,296	134,434,549	248,278,845
250,000	0	0	2,082,877	321,941	2,404,818
14,040	0	0	14,040	0	14,040
80,000	34,960	0	141,120	71,500	212,620
0	0	3,695,000	3,695,000	0	3,695,000
0	0	0	2,294	6,961	9,255
37	0	0	11,439	△ 11,439	0
0	0	0	0	1,700	1,700
354,402	34,960	4,015,000	119,791,066	142,387,212	262,178,278
720,000	0	3,140,000	36,562,169	4,508,800	41,070,969
0	0	455,478	5,392,625	726,601	6,119,226
12,862	0	9,250	257,645	113,932	371,577
317,143	0	0	1,709,743	117,233	1,826,976
1,050,005	0	3,604,728	43,922,182	5,466,566	49,388,748
200,000	0	3,000,000	15,673,520	1,274,400	16,947,920
16,704	0	0	76,843	0	76,843
26,930	2,665,336	0	3,768,309	254,890	4,023,199
105,310	0	0	871,250	23,049	894,299
3,678,119	1,380	27,610	28,070,656	485,111	28,555,767
0	0	0	665,008	0	665,008
253,240	1,247,557	43,658	4,889,176	362,420	5,251,596
322,920	0	1,931	11,015,677	2,069,616	13,085,293
59,022	0	36,520	1,187,183	238,692	1,425,875
0	0	0	25,596	136,000	161,596
0	0	0	498,087	79,496	577,583
66,324	0	0	5,580,361	947,853	6,528,214
0	0	0	520,409	449,731	970,140
83,150	0	186,040	1,038,541	165,898	1,204,439
0	0	0	31,000	26,000	57,000
0	0	2,000	50,601	51,523	102,124
63,720	0	0	121,742	0	121,742
0	0	0	877,680	0	877,680
6,588	12,096	0	149,516	902,832	1,052,348
0	0	0	2,700,000	0	2,700,000
0	0	0	1,306,000	0	1,306,000
4,360	0	0	51,525	31,754	83,279
0	0	0	15,228	83,206	98,434
1,795	0	0	201,590	24,759	226,349
0	0	0	3,006,140	0	3,006,140
95,564	0	0	1,369,879	0	1,369,879
0	0	0	2,865,928	0	2,865,928
0	0	0	59,417	0	59,417
24,592	0	0	24,592	0	24,592
0	0	0	140,914	38,400	179,314
5,008,338	3,926,369	3,297,759	86,852,368	7,645,630	94,497,998
6,058,343	3,926,369	6,902,487	130,774,550	13,112,196	143,886,746
△ 5,703,941	△ 3,891,409	△ 2,887,487	△ 10,983,484	129,275,016	118,291,532
0	0	0	0	8,074	8,074
0	0	0	0	8,074	8,074
△ 5,703,941	△ 3,891,409	△ 2,887,487	△ 10,983,484	129,266,942	118,283,458
△ 23,704,875	△ 8,069,636	△ 17,696,498	59,674,998	359,667,829	419,342,827
△ 29,408,816	△ 11,961,045	△ 20,583,985	48,691,514	488,934,771	537,626,285

用途が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
当法人の正味財産は 537,626,285 円ですが、そのうち 174,524,712 円は用途が特定されています。
したがって用途が制約されていない正味財産は 363,101,573 円です。

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額
緊急人道支援事業	29,328,214	109,100,958	81,429,172
東日本救援事業	96,094,262	2,860,154	18,109,716
東日本奨学金事業	2,988,121	650,169	2,705,718
プロジェクト準備金	35,747,440	0	0
合計	164,158,037	112,611,281	102,244,606

4 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少
有形固定資産什器備品			
建物	5,971,662	0	0
車両及び運搬具	0	412,384	0
工具・器具・備品	3,360,358	1,929,448	238,700
建物附属設備	719,250	0	0
投資その他の資産			
リサイクル預託金	0	11,630	0
敷金	60,000	0	0
緊急人道支援特定預金	29,328,214	109,100,958	81,429,172
東日本震災特定預金	96,094,262	2,860,154	18,109,716
東日本奨学金特定預金	2,988,121	650,169	2,705,718
プロジェクト用特定資産	35,747,440	0	0
合計	174,269,307	112,611,281	102,244,606

5 借入金の増減内訳

該当ありません。

6 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
受取寄附金	248,278,845	113,761
賃借料(管理費)	947,853	624,672
賃借料(事業費)	5,580,361	1,967,328
活動計算書計 (貸借対照表)	254,807,059	2,705,761
前払金	882,023	216,000
貸借対照表計	882,023	216,000

(単位：円)

期末残高	備 考
57,000,000	国内外で起こる緊急人道支援事業に使用しました
80,844,700	東日本復興支援事業に使用しました。
932,572	東日本で医療従事者を目指す学生の奨学金支援事業に使用しました。
35,747,440	インド事業のための積立金
174,524,712	

(単位：円)

期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
5,971,662	1,097,292	4,874,370
412,384	103,096	309,288
5,051,106	2,817,040	2,234,066
719,250	325,276	393,974
11,630	-	11,630
60,000	-	60,000
57,000,000	-	57,000,000
80,844,700	-	80,844,700
932,572	-	932,572
35,747,440	-	35,747,440
186,750,744	4,342,704	182,408,040

7 事業費と管理費の按分方法

事業本部の共通する経費のうち、従事割合の高い東日本・緊急人道支援事業に関しては給料手当及び法定福利費、賃借料、水道光熱費、通信運搬費を従事割合に基づいて按分しています。



第14回復興グルメF-1大会 in 南三陸 2017年3月26日

平成28年度は、4月に熊本地震が発災し、緊急医療支援をはじめ介護、鍼灸支援を行いました。そして平和構築事業をはじめネパール地震、東日本への復興支援など様々な活動を継続しています。
皆様の温かいご支援を引き続きよろしく申し上げます。